

平成 29 年度 事業報告及び決算(案)

本部事業

I 社会啓発・研修事業

「すべての県民(国民)が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する。」(障害者基本法)ための社会啓発・研修事業

1 社会啓発事業

(1) 権利擁護事業

虐待防止法等を含め障害者の権利擁護を啓発してきた。

(2) 会報・リーフレット等による情報発信

機関紙「手をつなぐ」の購入促進に努めた。

「会報」99号100号合併号(7,420部)を発行して情報提供を行った。

(3) ホームページの公開

研修会やスポーツ行事等の更新に努め、情報提供を行った。

(4) あいサポート運動等を活用した、あび隊による啓発活動

あび隊の活動を通して、学校の子どもたちや保護者・教職員の方々へ「知的障害・発達障害」の理解を深めてもらうことができた。

活動部会では、平成22年から配布されている広島県統一版サポートファイルの見直しに着手した。

(5) 「知的・発達障害のある子どもを育てるQ&A」の作成

知的障害のある子どもをもつ親(家族)が「乳幼児期」「学齢期」「高等部卒業後」「中・高齢期」のそれぞれのステージにおいて利活用でき、親の孤立感や不安感を解消して家族支援体制の確立と拡充、ハイリスク家庭への支援につなげることを目的とした、相談対応マニュアルを作成した。

今後、地域での研修会や総会等を通じて、育成会会員の他、広島県内の福祉の窓口、子ども家庭の窓口、教育委員会、特別支援教育研究連盟等に周知し、活用を図りたい。

2 研修・調査事業

(1) 研修(各種大会)

- ・全国大会(北海道大会)平成29年9月23日(土)・24日(日)代表数名参加
- ・中国・四国大会(徳島大会)平成29年11月11日(土)・12日(日)多数参加

(2) 県福祉大会(西部圏域大会・大竹会場) 下記のように開催し県内各地から参加し、研修した。

- ・事業名 第43回広島県知的障害者福祉大会・第16回はつらつ大会(本人大会)
- ・日時 平成29年11月19日(日)
- ・場所 (一般大会)大竹市総合市民会館
(本人大会)大竹市総合体育館
- ・参加者 参加総数約630人(内本人320名)※ボランティアも含む)
- ・内容 《一般大会》主題:「障害者の高齢化・重度化や親なき後も見据えて」
午前;開会行事・表彰ならびに来賓挨拶

講演会 講師 大村美保氏(筑波大学人間系助教)

演題「障害者の高齢化・重度化や親なき後も見据えて」

午後；シンポジウム
テーマ「わがまちで安心して暮らし続けるために」
《本人部会》主題；「みんなが輝いて安心して暮らせるまち
和太鼓ひびく大竹で輪を広げよう」
午前；開会行事・来賓挨拶
話し合い（行政）
意見発表「ちょっと話したい みんなきいて」
午後；第1アトラクション
一般大会と合流後第2アトラクション
大会決議文発表・閉会行事

(3) その他の研修会・セミナー

地域育成会活性化のための研修等事業

- ① ・事業内容；「尾道地域を活性化するための研修会」
・申請団体；尾道市手をつなぐ連合育成会
・実施日；平成30年1月6日（土）
・講師；又村 あおい氏
・参加者数；60名

- ② ・事業内容；「竹原市を活性化委するための研修会」
・申請団体；竹原市手をつなぐ育成会
・実施日；平成30年1月14日（日）
・講師；河野 政樹氏
・参加者数；50名

II 社会参加事業

知的障害のある人の社会参加を支援する事業

1 社会参加推進事業

○知的障害のある人が自立した生活を送る力を培うため、仲間とともに様々な研修や体験をする場を提供し、その支援を行った。

(1) 本人活動支援

本人同士の諸活動(本人交流会、本人相談会、代表者会)の支援を行ってきている。

- ① はつらつ友の会役員・代表者会を4回開き、本人大会（西部圏域大会・大竹会場）に向けて企画・運営を行った
- ② 中国・四国大会（本人大会）{徳島大会}をバックアップした。
- ③ 本人による本人のための相談会・交流を1月28日(日)育成会総合福祉センターで行った。
講師；物部 義之 氏

(2) スポーツ大会の開催、協力

- ① 県障害者陸上大会 {東広島運動公園；5月14日(日)}をはじめ、県各種スポーツ大会予選会を開催し、全国障害者スポーツ大会(愛媛県；10月27日～31日)に選手派遣を行った。

延べ75名の選手が参加した。個人競技では、陸上・水泳・卓球・フライングディスクの各競技で41個のメダル(金18個、銀12個、銅11個)を獲得した。

- ② 「2017ボーリンピック in はつかいち」を12月9日(土)広島市佐伯区ミスズボウルで行った。20団体182名参加。

(3) あいサポートふれあいコンサートの開催、協力

『あいサポーター』の活動を通じて、誰もが暮らしやすい地域社会(共生社会)をつくる『あいサポート運動』に賛同し、10月9日(月・祝)広島市東区民文化センターにて「あいサポートふれあいコンサート」を開催した。

2 地域生活支援事業

○自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、知的障害のある人や保護者に相談支援等を行うとともに障害の有無に関係なく安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目指す。

(1) 広島県知的相談員研修会

広島県知的障害者相談員および各市町障害福祉担当者に向けて、「差別解消法への取組」や「発達障害者が地域で生き生きと暮らせる支援」についての研修会を下記のように2回実施した。

- ① 三次会場 平成29年10月5日(木) 19名(内行政関係者5名)
- ② 広島会場 平成30年1月16日(火) 25名(内行政関係者9名)
 - ・行政説明「知的障害者相談員の役割について」
佐々本 耕平 氏(広島県健康福祉局障害者支援課 主任)
 - ・講演 「多職種連携による地域生活支援と地域コミュニティの活かし方」
田中 聡子 氏(県立広島大学 保健福祉学部人間福祉学科 教授)
 - ・ワークショップ 指導; 田中 聡子 氏
○地域コミュニティを活かした支援や相談援助の演習

(2) 「第6回きらっと光る人生を考える研究大会」(共催; 広島県知的障害者福祉協会)

テーマ; 「自分の住みたいところで、きらっと光る人生を送る」

日 時; 平成29年12月16日(土)

場 所; 広島県健康福祉センター(8階)(広島県地域保健医療推進機構)

内 容; ①行政説明 「生活場の現状と今後の方向性」

講師; 大平 眞太郎 氏(厚生労働省社会・相談支援専門官)

②実践報告「障害者の高齢化・重度化・親亡き後の生活場と支援」

発表者; 高澤 茂夫(栃木県社会福祉法人 とちのみ学園 施設長)

③実践報告「障害者の高齢化・重度化・親亡き後の生活場と支援」

発表者; 村上 和子 氏(大分県社会福祉法人 シンフォニー 理事長)

④障害者福祉の展望「障害者の高齢化・重度化・親亡き後の生活場と支援」の展望

発表者; 高木 美智代 氏(衆議院議員、厚生労働副大臣)

⑤障害者福祉の展望「障害者の高齢化・重度化・親亡き後の生活場と支援」の展望

発表者; 衛藤 晟一 氏(参議院議員 首相補佐官 社会福祉推進議員連盟会長)

⑥シンポジウム「安心できる親亡き後の生活場を考える」

進行; 副島 宏克(広島県手をつなぐ育成会 会長)

シンポジスト; 衛藤 晟一 (参議院議員 首相補佐官 自民党)

高木 美智代(衆議院議員 厚生労働副大臣 公明党)

内山 博之(厚生労働省 障害福祉課長)

村上 和子(社福シンフォニー理事長)

高澤 茂夫(社福とちのみ学園 施設長)

⑦参加人数; 189名(含 講師・実行委員)